

若林図書館は1993年の開館から32年、また、2015年に（株）ヴィアックスが指定管理者として運営管理を担ってからは10年が過ぎました。多目的ホールや公民館施設を併設する若林区文化センターのなかにあって多くの皆さんにご利用いただいています。

2024年～2025年にかけては設備面を中心に施設全体の大規模改修が行われました。工事期間中はご不便をおかけしましたが、この改修を機に図書館では館内のレイアウトを一部変更し、2階にYAコーナーを新設いたしました。若い世代に向けた図書を中心に約2,000冊を配架、明るい照明のもとでゆったりと読書や学習に向き合える席も設けました。改修の前年から図書館で活動する中高生のボランティアの募集を行っており、新たなコーナーの展示や読書案内の編集にもかかわっていただきます。

文化センターの近隣は、区役所をはじめ小中高の学校、子育て支援機関、社会福祉協議会などの地域施設があり区内の交流拠点となるエリアです。幅広い世代の方々に暮らしのなかで図書館を活用していただけるように蔵書の整備を進めるとともに、施設間の連携による講座なども開催し、皆さまに親

むらかみ よしこ
仙台市若林図書館 館長 村上 佳子

しまれ信頼される図書館運営に努めています。

仙台市若林図書館

蔵書数／264,585点
(2025年3月末現在)
開館時間／火～金9:30～19:00
土日休9:30～18:00
●休館日／月曜日、休日の翌日、1月～11月の
第4木曜日、年末年始 特別整理期間
住所／〒984-0827
仙台市若林区南小泉1丁目-1-1
TEL:022-282-1175



日本国語大辞典(第二版)

小学館国語辞典編集部[著] 小学館[出版]



文学部国文学専攻で、初めに教わったことは、「日本国語大辞典」を引くことでした。研究室では、学生たちが書棚から1巻ずつ下ろしては、必要な語を探し出し、語訳や用法などを書き写し、再び書棚に戻すのを繰り返します。私たちは、「あ」から「ん」まで20巻ある大型辞典を「にっこさん」と呼び、時には奪い取り、時には譲り合って手元に置いたものでした。

社会人となって数年後の平成12年(2000年)、第二版の発売が発表されました。全13巻、項目数約50万語、用例数約100万、引用文献約3万点。私は、「日本語を愛するすべてへ」というコピーに誘われ、また、「にっこさん」を独り占めしたいという邪な思いに駆られ、購入を決めました。1月ごとに1巻ずつ書店から届けられ、手にすると、当てもなくページをめくり、読み耽ったのを覚えています。

それぞれの項目は、用例の示すところに従って時代を追って語訳が記述されています。用例には、出典が記され、その成立年(刊行年)が付けられています。これが、小型辞典や中型辞典と異なるところです。それぞれの項目を読み進めていくと、古代から現代に至るまでの意味や用法の変遷、連続や変化を捉えることができます。

最終巻が届くと、約30ページに及ぶ編集後記とあとがきを、一気に読み通しました。「編集後記(初版)」は、「『日本国語大辞典』は、編集顧問、編集委員を中心にして大勢の協力者の参画を

表紙エッセイ 著者紹介

大山明美 (おおやま・あけみ)

1961年 宮城県生まれ。

宮城県在職中、総務課など3回にわたり7年間教育庁で勤務。
2022年に宮城県を退職後、公益社団法人宮城県建設センター専務理事を経て、
2025年4月から現職。

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル「ことばのうみ」は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海(げんかい)』(1889～1891年刊行)に由来する。

第 82 号
2025 年 10 月発行

編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205
仙台市泉区柴山一丁目1番地1
TEL022-377-8441(代表)
FAX022-377-8484
ホームページ
<https://www.library.pref.miagi.jp/>

広告



LINE 泉パークタウン公式アカウントはじめました!

- 1 イベント情報やまちのお得な情報が配信される!
- 2 町内会の回覧板を確認できる!
- 3 バスの位置情報を確認できる!
- 4 町内会の集会所を予約できる!

※3,4は泉パークタウン内 契約町内会 会員限定



三菱地所

KOTOBA
NO
UMI

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No.82

2025.10

ことばのうみ

特集 Q.資料 探しをサポートします!
—レファレンスサービスのご案内—



3階・調査相談
カウンター

私が、本と言えるものに出会ったのは小学校二年の頃、叔父から贈られた「そんごくう」だった。この痛快な冒険物語は私を夢中にさせ、何度も読み返しながら、いつの間にか主人公に成りきっていた気がする。唯一の宝物であるこの本は、何十回、何百回と読まれて、ついには外函も含めてボロボロになってしまった。そんな状況を見かねて、小学校四年の時に父が買ってくれたのは「学習百科事典全十巻」だった。歴史、地理から動植物、自然、芸術まで幅広い分野に、今まで見たことも聞いたこともない世界が広がっている。全ての巻をまるで物語でもあるかのように読み耽った。テレビがない下宿部屋で一人過ごす高校時代の友は、「リーダーズダイジェスト日本語版」だった。娯楽から学術論文まで世界の主要な雑誌や単行本の要約の乱読によって、大きく世界が広がっていた記憶がある。大学に入つてから読んだ「光あるうち光の中を歩め」や「人生論」などから、人間の根本的な問題を考えさせられ、自分の人生における主軸を学ぶことができたよう思ふ。この四月から図書館勤務となつた。目の前には多くの本が並んでいる。読みたかった本、懐かしい本、そして初めての本。その都度感動を覚え、心が躍る。多くの皆様に図書館がそんな感動を味わっていただけの場になればと考えている。



私と本との出会い

館長 大山 明美

